

授業科目名	保育内容指導法 (環境)	教員名	満行 知花	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
授業形態	演習	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	選択
科目番号	FOI205	配当年次	2年前期	卒業要件	小幼コース	選択必修
単位数	2単位				幼保コース	必修
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)					
施行規則に 定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)					
一般目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。					
到達目標	<p>(1)領域「環境」のねらい及び内容について</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域「環境」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)領域「環境」の指導方法と保育の構想について</p> <p>①幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
授業の概要	<p>保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。この授業では、幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていくための指導法および基本的な知識を身につける。</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容、内容の取扱いについての理解を深めるとともに、他領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係を知る。子どもをとりまく環境として、物的環境、自然環境、植物、動物、標識・文字、数量・図形との出会いについての基本的な知識や技能を習得し、それらを活用した保育の方法について実践的に学ぶ。子どもの発達を踏まえて、保育における環境 (人的環境、物的環境、社会環境など) を構成する技術を取得する。</p> <p>また、実際の保育実践の検討を行うことで、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を修得する。具体的な保育方法の考案を行い、それらを子どもの発達や領域「環境」の特性から、批判的に検討し、保育を改善する視点を身に付ける。</p> <p>アクティブラーニングとして、保育活動・遊びの体験・考案、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					

授 業 計 画	<p>第1回：領域「環境」のねらいと内容及び評価  領域「環境」のねらいと内容に関する小テストを実施し、各自、自身の理解度を把握する。領域「環境」のねらいと内容、内容の取り扱いについて復習を行う。保育内容指導法（環境）の授業目標を理解する。教育課程や指導計画を改善するために必要な評価の考え方を学ぶ。（目標(1)①③④、目標(2)①③⑤）</p> <p>第2回：自然物のお店屋さんごっこ 計画  自然物を用いたごっこ遊びが、領域「環境」のねらいや内容とどのように関係するかを理解する。構内周辺の散策を通じて、自然物の種類や素材の特性に気づき、遊びへの活用方法を考える。グループごとに活動の「ねらい」「使用する自然物」「自然物を活用した品物」を検討し、保育者の視点から活動計画を立てる（目標(1)②、目標(2)①②⑤）</p> <p>第3回：自然物のお店屋さんごっこ 準備  実践に向けて、保育環境の構成を検討する。活動の展開や子どもとのやりとりを想定しながら、保育空間の配置や自然物の使い方、必要な支援について考える。ICT機器を用いて素材を記録・分類し、紙媒体・ICTの図鑑などから情報を得ることで、素材理解や活動の深まりにつながる教材化の視点を養う。（目標(1)②、目標(2)①②⑤）</p> <p>第4回：自然物のお店屋さんごっこ 実践  自然物を用いたごっこ遊びを通して、幼児がどのように環境に関わり、探索・創造・他者とのやりとりを経験するかを体験的に理解する。学生は店員役とお客さん役の両方を交代で体験し、自然物の特性や遊びへの展開、幼児の主体的な活動につながる要素を考察する。実践後は、保育者の視点から活動をふりかえり、ねらいや内容との関連、環境構成、支援の工夫点・改善点について整理・共有する。（目標(1)-①②、目標(2)-①②⑤）</p> <p>第5回：指導案の作成方法と園外保育の構想  保育における指導案の役割と基本構成を理解し、子どもの発達や活動のねらいに応じて保育を計画する視点を身につける。指導案の基本的な型を押さえた上で、動物園での園外保育を想定し、グループごとに指導案を作成する。安全や観察方法など、園外保育に特有の配慮点を整理する。（目標(1)-②③、目標(2)-①③⑤）</p> <p>第6回：生物とのかかわりとその教材化 事前学習  子どもの社会認識の発達と、地域の社会施設との関わりが幼児期に果たす役割について理解を深める。エピソードを分析し、それらの経験が子どもの発達に与える影響を考察する。社会施設の1つとして動物園を取り上げ、その特徴と歴史的背景、役割について学ぶ。動物園の動物を観察する上でポイントとなる、生物学的知識(行動・生態など)を整理する。あわせて、前回作成した指導案の内容を見直し、修正・調整を行う。（目標(1)-②④、目標(2)-①③⑤）</p> <p>第7回・第8回：生物とのかかわりとその教材化 実践  ※天候や受講生の都合等に合わせ、宮崎市フェニックス自然動物園で行うか大学周辺で行うかを決定します。  動物園または構内において生物の観察を行う。観察をもとに、子どもに紹介したい内容をグループで検討し、教材としてまとめる（絵本、ペーパーサート、紙芝居など、形式は問わないものとする）。（目標(1)②④、目標(2)①②⑤）</p> <p>第9回：生物との関わりとその教材化 発表会  前回までの活動で作成した教材について、グループごとに発表を行う。発表では、観察した生</p>
---------	--

	<p>物の特徴や、子どもに伝えたいポイント、教材化にあたって工夫した点などを共有する。他グループの発表を通して、生物とのかかわり方や表現方法の多様性を学び、保育における教材化の視点を深める。(目標(1)-②④、目標(2)-①②③⑤)</p> <p>第10回：模擬保育に向けた指導案作成 グループごとに領域「環境」に関連した模擬保育を計画し、指導案を作成する。第11～13回の模擬保育での実施を見据え、幼児の姿や活動の展開を具体的にイメージしながら、保育の計画を立てる力を養う。 (目標(1)-②④、目標(2)-①③⑤)</p> <p>第11回：模擬保育 グループごとに模擬保育を実施し、保育者としての関わりや活動の流れ、環境構成、子どもの反応などをふまえて実践をふりかえる。他グループの活動からも学びを得ながら、保育のねらいや内容に応じた援助や活動の工夫について理解を深める。 (目標(1)-②④、目標(2)-①③④⑤)</p> <p>第12回：模擬保育 グループごとに模擬保育を実施し、保育者としての関わりや活動の流れ、環境構成、子どもの反応などをふまえて実践をふりかえる。他グループの活動からも学びを得ながら、保育のねらいや内容に応じた援助や活動の工夫について理解を深める。 (目標(1)-②④、目標(2)-①③④⑤)</p> <p>第13回：模擬保育 グループごとに模擬保育を実施し、保育者としての関わりや活動の流れ、環境構成、子どもの反応などをふまえて実践をふりかえる。他グループの活動からも学びを得ながら、保育のねらいや内容に応じた援助や活動の工夫について理解を深める。 (目標(1)-②④、目標(2)-①③④⑤)</p> <p>第14回：保育のふりかえりと評価 模擬保育の記録や動画をもとに、指導案と照らし合わせながら活動をふりかえる。活動のねらいと実際の展開との関係、保育者の援助や環境構成の妥当性について省察し、保育の評価と改善に必要な視点を身につける。 (目標(1)-③、目標(2)-①④⑤)</p> <p>第15回：授業のまとめ</p> <p>期末試験：試験期間中に実施 期末試験は教科書・プリント持ち込み「不可」とする。 基本的な知識問題と論述問題を中心とする。</p>
<p>学生に対する評価</p>	<p>毎回のレポートの内容10%、模擬保育・プレゼンテーションへの取り組み40%、期末試験の成績50%で評価する。なお、提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・レポートに質問コーナーを設ける。レポートの答案例や質問に対する回答は授業で取り上げる。</p>
<p>時間外の学習について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 事前学習：毎回授業後に次回の授業につながる課題を課す。課題について十分に調べ、また考察すること。プレゼンテーションに向けて、グループごとに授業外の時間で活動するなど、自発的に準備すること。 事後学習：講義内容、体験活動を子どもの育ちと関連付けるレポート課題を毎回課す。授業内容を</p>

	振り返り、十分な考察を行うこと。
テキスト	なし。授業ごとに資料、ワークシートを配布する。
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田ら「新時代の保育双書 保育内容 環境 [第3版]」サンメッセ株式会社</li> <li>・吉田・横井「新・保育実践を支える 環境」福村出版株式会社</li> <li>・秋田・三宅「シリーズ 知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・環境」サンメッセ株式会社)</li> <li>・開 「保育指導案大百科事典」一藝社</li> <li>・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館</li> <li>・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館</li> </ul>
担当者からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児は、身近な自然や生き物とのかかわりを通して、発見したり、どうしたらうまくいくかを考えたり、誰かと分かち合ったりしながら、さまざまな経験を積み重ねていきます。本授業では、自然物を使った遊びや模擬保育、観察や教材づくりなどの活動を行います。保育の計画やふりかえりを通して「どのような経験が、どのような育ちにつながるか」を考える力を養っていきましょう。楽しみながら、深く学びましょう。</li> <li>・本授業は天候に左右されるため、授業の順番が前後することがあります。授業内容の変更等について、天気予報を踏まえてメールでお知らせすることがあります。</li> <li>・フィールドワークの際には、汚れても構わない服装・靴を身に付けてください。安全対策に関する知識を身につけ、十分注意して行ってください。</li> <li>・動物園での観察の有無については天候や受講生の都合等に合わせて決定します。(具体的な実施日についても授業で連絡します)。</li> </ul>
オフィスアワー	随時訪問を受け付けます。できるだけ事前にアポイントメントをとってください。